

嵯峨谷の神踊り

嵯峨谷の神踊りは、毎年8月15日に、地区内にある若宮八幡宮で、家内安全・五穀豊穡・地区の平和などを願って催されます。「地方」といわれる歌い手の音頭に合わせて、大太鼓、小太鼓を打ち鳴らしながら、数種類の踊りを奉納します。

その起源は、室町時代に遡るといわれますが、詳しい文献は残っておらず、現在も伝えられている歌台本は年号不明です。そして、女性は一切関与できず、踊りに参加できるのは地区内在住の15歳から25歳までの未婚の男子のみとされてきました。

これらの条件は時代の流れに沿って改変され現在へと引き継がれてきましたが、今後も後世に嵯峨谷の神踊りを継承していくため、大阪芸術大学との協働で楽譜などのデータ化、踊りの映像化を行います。



伝統文化を
継承したい

嵯峨谷の神踊り保存会

会長 辻本広一さん

嵯峨谷の神踊りは、古くから続く伝統ある文化です。現存する資料には、不明な点も多く、会員でも知らない踊りも記録されています。

今回、大阪芸術大学の皆さんのご協力で、映像化してもらえると、このことで、歌や太鼓、踊りなどを正確に継承していけると思います。

今回の事業によって定住者が増えることを期待し、踊り手を絶やすことなく、嵯峨谷の神踊りを後世に伝えていきたいです。

